

ROTARY INTERNATIONAL GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365

SHINKICHI HORIBA

NAKASHINMICHI SANJO, KYOTO, JAPAN



各地ロータリークラブ

会長並びに幹事殿

No. 13

昭和35年6月15日

国際ロータリー
第365区ガバナー

堀場 信吉

荒野をゆくときも
あらし吹くときも
ゆくてをしめして
たえずみちびきませ

また会う日まで
また会う日まで
かみのまもり
汝が身を離れざれ

—Jeremiah Eames Rankin, 1882—

会長 幹事の皆様!!

弥々私のガバナー月信も本号を以って終りを告げる事になりました。勿論七月に追報を出しますがそれはただ残務の整理であります。会長幹事の皆様本当に御苦労さまで御座いました。この一年実に御多忙であったことと推察申し上げます。それでも皆様の御努力により皆様のクラブが弥々なごやかになり各メンバーがロータリーを身につけ益々奉仕の活動が活潑に行なわれていることを御喜び申し上げます。私は実に不敏であって皆様の御期待にそむいたことと思います。私は最初から親まれるガバナーとして皆様のクラブを出来るだけ明るく友情に充ち充ちたるものにして頂きたいと願っていましたが何等皆様のためになるようなことが出来なかったことを恥かしく思っています。とにかく不完全ながらも一年間の行事を終りましたことは私の多大の幸福であり心からの喜びであります。これは一重に皆様の絶大の御後援の賜であります。厚く厚く御礼を申し上げます。なお途中病気などして皆様に大変な迷惑をかけたことを深く御詫び申し上げます。

私自身は各地のクラブの公式訪問において

いろいろのことを学び、また新しいものを見せて頂き非常な利益を得ました。また各地に友人が出来てその心からなる友情によりしみじみと人生の幸福を味わいました。

公式訪問において最も面白く感じたことは各クラブ特にアッセンブリーでその空気が異なっていることであります。同じ方法でロータリーを論じながらもかくも空気が異なるものかと面白く感じました。各クラブで考へられた立派な活動には心から讃辞を捧げましたがクラブの運営でこれはどうかと思つた点は卒直に苦言を呈しましたこと悪からず御許しを願います。吾が地区全体として各クラブが奉仕活動に対し意慾に燃えて益々将来の発展の期待せられることは実に喜ばしいことであります。

新しいクラブの増設については実に不成績であったことは私の力の足りなかつた所以で実に恥かしいことであります。クラブ新設の出来そうな土地が多くありながらいろいろの事情で早く出来ないのは残念であります。新しい年度のガバナー中野様によろしく御願ひ致します。

会長幹事の皆様!! 大変ありがとうございます

した。弥々御健勝でロータリークラブの発展のために尽瘁あらんことを切に御祈り致します。

○佐治博氏の御急逝

まことに悲しい御知らせが参りました。第360区次年度ガバナーである佐治博氏が12日狭心症のために急に逝去せられたこととあります。レークプラシッドにおける国際協議会及びマイアミにおける国際大会に参加、4日に帰朝せられたばかりでありまったく驚くばかりであります。心から皆さんと共に御冥福を祈り、御遺族にお悔やみ申し上げます。

○マイアミ大会の盛況

5月29日から6月2日にわたってマイアミ・ビーチにおいて開かれた国際大会は極めて成功裡に終了しました。中野次年度ガバナーをはじめこの大会に当地区から御参加になった皆さんもさぞかし御満足であったことと存じます。何れ御帰えりになったなれば、詳しい大会の模様を伺うことが出来るかと思いますが、本部から参りました報告によってその一端を御紹介することにしましょう

この大会に参加されたロータリアンとその家族の方の数は全部で11,351名でありましたがこのことをもって、いかに大会が盛況であったことかを知ることが出来ます。御承知の通りマイアミビーチは、世界的に有名な避暑地で、風光明媚であり、かついろいろと旅情をたのしませる雰囲気豊かな所ではありますが、このレポートによりますと、マイアミは全アメリカの十字路と呼ばれ実に友情の架け橋をなすにふさわしい所であるとされているのであります。またここは常夏の魔法の市ともいわれる程に、エキゾチックな所でありまして、前夜祭では土地自慢のフラミンゴまつりが挙行されて先づ来会者の度ぎもを抜きました。

R.I.の理事、トリスタン E. ゲバラ氏のいう「そのたえまなく流れる水によって、からだでなく魂を若返らせるところの友情と善意という力あふるる泉、こそマイアミのもつ持味というべきものでしょう。

さて大会での主なスピーカーは、ジェームス・P. ミッチェル（労働省長官）、エドワード V. リッケンバッカー（極東航空の取締役会長）、ビクトールアンドレベロンデ（全米協議会会長）といっ

た方々でありまた当然のことながらハロルド T. トーマス会長や J. エド・マクローリン次期会長の演説もありました。

今年度の大会では規定審議会が開かれて11項目の条文と、4項目の決議が採用され、5項目の条文が修正の上採用されました。

ミーンズ事務総長の報告によりますと、この年度は“building”という強い行動的なことばで表現される年であり、そのことは376の新しいクラブが生れ、全体で10,629のクラブ数、490,000人の会員数を算える目ざましい発展をとげたことによっても知ることが出来ると思っております。

Vocational Craft Assemblies での挿話として、私たちが興味を感じないではいられないことは、あるロータリアンが、こういう話題を提案したこととあります。すなわち、“皆さん、私は、ロータリアンとして私達が平常極めてルーズに使っている保証ということばをもう一度見直さなければならないと信じます。私は私達が本当に四つのテストに照らして何事においても合格するとは信じられないのであります”というのであります。このことは決して皮相な問題ではありません。本当の意味で私たちが果して保証ということが出来るかどうか真剣に考えてみる必要があるということとを彼が提案したのであります。私達は一体これに対してどういう答えをなすことが出来るでしょうか。

大会は何ととってもロータリアン同志が友情をわかち合う場所であります。House of Friendship がとくにそのために美しくかつ便利よく備えられていたことは想像にしくはありません。

“Make yourselves at home どうぞ御気楽に”と接待のゆきとどいた有様は、ある夫人をしてこんな悲鳴をさえあげしめました。“ああ私は一枚のハガキを書かねばなりません。全く私たちは手紙一本したための余裕もあたえられない……忙しいことったら”と。

大会の余興もすばらしいものであったにちがひありません。“友情の橋”という題の音楽は世界中の代表的な歌曲を集めたもので、大会にふさわしいプログラムというべきでありましょう。おそらく日本の歌曲も出て来て、来会の日本人をよろこばしたことでありましょう。